

戦闘長期化で経済に長期的打撃—ウクライナ

By JAMES MARSON

(2014年8月21日 10:00 JST W S J)

<http://bit.ly/lqrDs5d>

戦闘で死亡したウクライナ軍兵士の棺 Reuters

【モスクワ】ウクライナのヤツェニユク首相は20日、同国東部での戦闘がウクライナ経済に長期的なダメージを与え、経済再建の取り組みが損なわれつつあると警告した。同首相は、ウクライナは日毎に経済の潜在力を失っているとし、インフラの復旧には巨額の資金が必要になると述べた。

4ヵ月間に及ぶウクライナ政府軍と親ロシア派武装勢力との戦闘を終結させるための外交努力は再開されたが、同国東部ではこの日も激しい戦闘が行われた。プーチン・ロシア大統領は26日にポロシェンコ・ウクライナ大統領や欧州連合（EU）高官らと会談する予定だ。ウクライナ政府や西側各国の当局者は、会談で和平に向けての進展があるのではとの期待を表明している。

ヤツェニユク首相は、親ロ派が鉱山や発電所、鉄道などのインフラを意図的に攻撃していると批判し、「ウクライナを経済的に締め付けようという計画的な行動であるのは明白だ」と述べた。ロシアは、同国が親ロシア派支援のため戦闘員を派遣し、武器を供与しているとの西側の主張を否定している。

シュラパク・ウクライナ財務相は国際通貨基金（IMF）に対し、総額36億ドル（約3,700億円）に上る3回にわたる融資の最終回分14億ドルについて、前倒しで供与するよう要請した。ヤツェニユク首相は、IMF理事会が8月29日に最終回分の供与を承認すると期待していると語った。

IMFは融資の見返りに、ウクライナ政府に対し歳出削減や、家計向けガス価格の引き上げ、通貨グリブナの買い支え自粛を求めている。しかし、同国政府はIMF資金を東部での軍事作戦に流用しているのが実態で、ヤツェニユク首相は戦闘のため経済再建計画が妨げられていると懸念を表明した。IMFによれば、今年のウクライナの経済成長率はマイナス6.5%と見込まれており、グリブナはここ数週間過去最低水準に落ち込んでいる。

スタンダード銀行のアナリストであるティモシー・アッシュ氏は、「治安が安定しなければ、グリブナは一段安に見舞われる公算が大きく、そうなればインフレは加速し、リセッション（景気後退）は深刻化し、金融機関や政府財政はさらに圧迫されるだろう」と分析する。

ウクライナ政府軍は20日、親ロ派が支配しているいくつかの都市に攻撃を加えた。ドネツクの地元当局者によれば、前日には戦闘で市民34人が死亡し、29人が負傷した。政府軍の報道官は、武装勢力にとってはドネツクの拠点向けの重要な補給ルートとなっている町Ilovaiskを奪還したと発表した。親ロ派はこれを否定している。

同報道官によれば、Ilovaiskの制圧は親ロ派を分断するポロシェンコ大統領の新戦略の一環で、

政府軍は武装勢力の支配地を狭めるよりも、分断し孤立させようとしている。親口派は政府の武器放棄の呼び掛けを拒否し、東部州の独立を要求している。一方、ウクライナの政界関係者らは、停戦に応じれば、武装勢力が支配地域の統制を強化し、ロシアに長期的な影響力を与えることになる恐れがあるとし、現時点での停戦には疑念を持っている。

一方、ロシア政府がウクライナに人道支援物資を届けるためとして動員した大量のトラックは14日から、ウクライナとの国境沿いのドネツクと呼ばれるロシア側の町近くに待機したまま。ただ、20日遅くにロシア側税関地帯に向かった。

<http://on.wsj.com/lnc0uvY>

米国 人道援助トラック部隊に対する新たな制裁でロシアを威嚇

(リア-ノーヴォスチ 2014.08.23 09:28)

◎ Photo: RIA Novosti/Maksim Blinov <http://bit.ly/1vuUQdY>

米国のベン・ローズ安全保障担当大統領副補佐官は、記者団に対し「ロシアは、東部地域住民用の人道援助物資を積んだトラックをウクライナから引き揚げるべきだ。さもなければ、ロシアは新たな制裁にさらされるだろう」と述べた。

ローズ副補佐官は又「我々は深く憂慮し、ロシアの行為は、ウクライナの主権の甚だしい侵害であるとみなしている。ウクライナ政府は、同意していなかった」と指摘した。なおローズ副補佐官によれば、米国は、この問題を国連安全保障理事会に提起する意向だ。

<http://bit.ly/1tuPZZE>

日本 一連の日本市民のロシア入国制限に遺憾の意

(リア-ノーヴォスチ 2014.08.23 10:43)

◎ Фото: «Голос России» <http://bit.ly/1AGxpBi>

在モスクワ日本大使館のオオツキ報道官は、リア-ノーヴォスチ通信に対し「日本は、日本政府の制裁措置に対抗し、ロシアが一連の日本市民の入国制限を導入した事を遺憾に思っている」と伝えた。

報道官は「こうした措置は、日ロ関係に否定的な影響を及ぼすものであり、極めて遺憾だ」と述べている。

22日、ロシアのモルグロフ外務次官は、原田親仁駐ロシア日本大使に、制裁対象者の名簿を手渡

した。なお制裁対象者の人数や人物名は、公表されていない。

<http://bit.ly/1tqoSjk>

ウクライナ東部 ロシアのジャーナリストに迫撃砲攻撃

(リア-ノーヴォスチ 2014.08.23 10:51)

◦ Photo: RIA Novosti/Valeriy Melnikov <http://bit.ly/1pSBL4A>

22日、ウクライナ東部ルガンスクで取材中の、国際情報通信社「ロシア・トゥディ」、イタル-タス、テレビNTV及び第一チャンネルなどロシアの複数のマスコミ機関のジャーナリスト達が、ウクライナ軍側からの迫撃砲攻撃にさらされた。22日、自ら独立を宣言するルガンスク人民共和国報道部のピョートル・ミハイロフ報道官が伝えた。さらに報道官は「砲撃の結果、7歳の少女が重傷を負った。こうした攻撃は毎日なされている。キエフ当局の目的は、ルガンスク市民の間にパニックの種を撒く事だ」と指摘した。

<http://bit.ly/1pSBJtH>

チュルキン国連大使 国連安保理事会は「曲がった鏡の王国」

(リア-ノーヴォスチ 2014.08.23 11:47)

◦ Photo: East News/AP <http://bit.ly/1nok9sP>

ロシアのチュルキン国連大使は、国連安全保障理事会の会合を「曲がった鏡の王国」だとして批判した。チュルキン大使は、「国連安保理事会のあるメンバーたちは、ウクライナ東部で一般市民が死亡していることにも、東部の人道的大惨事にも関心を示さず、砲撃にさらされている人々にロシアが人道支援を提供しているという事実のみを心配していた」と述べた。これより先、ロシアのラヴロフ外相は、西側がウクライナ南部・東部への人道支援の必要性を認めないことについて、「目に余るシニシズムの現象」だと述べた。

<http://bit.ly/1q9kEvb>

人道支援車列の第一陣 ウクライナからロシアへ戻る

(インターファクス 2014.08.23 12:01)

◦ Photo: RIA Novosti/Maksim Blinov <http://bit.ly/114tj26>

ウクライナ南部・東部の住民向けのロシアの人道支援物資を積んだトラックの車列のうち最初の

7台がロシアの検問所を通過して、ウクライナからロシアへ戻った。ロシア南通関部のラヤン・ファルクシン広報担当責任者が23日朝、記者団に伝えた。

ファルクシン氏によると、モスクワ時間で10時05分、ロシアの人道支援車列の第一陣が、ロシアの検問所「ドネツク」を通過した。検査を受けた後、7台のトラックはロシアへ入った。

<http://bit.ly/lrsw05d>

ロシア「切迫した必要性からウクライナ東部に人道援助物資が送られた」と国連に説明

(リア-ノーヴォスチ 2014.08.23 12:35)

© Photo: Flickr.com/John Gillespie/cc-by-sa 3.0 <http://bit.ly/lpUvgy9>

ロシアのチュルキン国連大使は「ロシアは、切迫した必要性を考慮して、ウクライナ東部へ緊急人道援助物資を送る決定を下した」と述べた。23日、テレビ「ロシア24」が伝えた。

またチュルキン国連大使は「ロシアは、形成された状況における物資の運搬に関しキエフ当局の最終的決断を長い間待っていたが、永遠に待つ事は出来なかった」と指摘し、援助物資の中身については、ロシア側から8月12日にキエフ当局と国際赤十字にすでに伝達済みである事に注意を促した。

これに先立ち、プーチン大統領とドイツのメルケル首相は、ロシアの人道援助物資発送に伴う状況について、電話で話し合った。その際メルケル首相は、ウクライナ側の同意なく、又国際赤十字代表の随行なく、又部分的には事前のチェックもなくトラック部隊が国境を越えた事に、強い憂慮の念を表わした。これに対しプーチン大統領は「これ以上、人道援助物資の発送を長引かせることは許されなかった」と述べ「この問題においてロシアは、キエフ当局側から、あからさまな時間稼ぎにあっていた」と指摘した。また大統領は「ウクライナのドネツク及びルガンスク両州でキエフ当局は、大規模な軍事作戦をエスカレートさせている。これは、平和に暮らす一般市民の中に新たな犠牲者を生むことにつながる」として深刻な憂慮の念を表明した。

http://japanese.ruvr.ru/news/2014_08_23/276289588/

ロシア 最も強力なミサイルシステムの実験を開始

(イタル・タス、「ロシア新聞」 2014.08.23 13:57)

Photo: RIA Novosti <http://bit.ly/lnolz6s>

ロシア企業は来年、地对空ミサイルシステムS-300の製造を完全に停止する。軍産複合体の地位の高い情報筋が、イタル・タス通信に伝えた。

軍産複合体の情報筋はまた、時の経過とともにS-300が時代遅れになっているため、ロシア軍では、S-300が地対空ミサイルS-400に交換されると指摘した。

複数の情報によると、すでに現在6部隊にS-400が装備されており、警備任務を遂行している。なお、技術的にさらに強力なS-500も準備されている。

最近、ミサイル防衛を指揮するアンドレイ・デミン氏は、最初に製造されるS-500は、首都モスクワとロシア中央部をカバーすると発表した。S-500の輸出は、2016年以降に開始される見込み。

<http://bit.ly/1p3jMUa>

米独 ロシアに対し「人道支援車両越境で挑発」と非難

(リア-ノーヴォスチ 2014.08.23 16:49)

◦ Photo: East News/Polaris <http://bit.ly/1ps255R>

米国のオバマ大統領とドイツのメルケル首相は、電話会談の中で、ロシアからの人道援助物資運搬トラック部隊がウクライナとの国境を越えた事について、これを挑発行為であると非難した。23日AP通信が、ホワイトハウスの発表を引用して伝えた。また両首脳は、ロシアに対し、ウクライナとの国境から部隊を撤退させ、車両及び人員をウクライナ領内から引き揚げるよう求めた。

これまで欧米諸国は、幾度となく「ロシアは義勇兵らに武器を供給している」と非難してきたが、ロシア政府はこれに対し「我々は、義勇兵に武器など供給しておらず、ウクライナ東部にロシア軍人は存在しない」と明言してきた。

<http://bit.ly/1vakxD3>

メルケル独首相、ロシアに武器や戦闘員の輸送停止求める

By Anton Troianovski and Paul Sonne

(2014年8月24日 16:15 JST WSJ)

<http://bit.ly/1t5AZDX>

メルケル独首相とウクライナのポロシェンコ大統領 (23日) Reuters

【キエフ】メルケル独首相は23日、ウクライナを訪問し、危機を解消するため協議の必要性をあらためて強調した。この訪問はまた、ロシアが支援物資を積んだトラックを許可なくウクライナに侵入させたことや、ウクライナ国内でのロシア軍の活動が指摘されたことで高まった緊張の緩和を目的としていた。ロシアは親ロシア分離派勢力が支配するウクライナ東部にトラックを派遣。欧州安

保協力機構（OSCE）によると、トラックは227台に上った。

メルケル首相はトラックの派遣をめぐってロシアに新たな制裁を科すことは考えていないと述べた。国際機関の関係者が23日、ロシアのトラックが全て自国領内に戻ったことを明らかにし緊張感はやや和らいだ。同首相は、ウクライナのポロシェンコ大統領との会談後の記者会見で、「今の時点の問題は、新たな制裁ではない」と述べた。

ポロシェンコ大統領は26日にベラルーシの首都ミンスクで、ロシアのプーチン大統領や欧州連合（EU）高官と会合を行う予定。メルケル首相は、ウクライナとロシア、国際機関関係者、ウクライナの地方代表で構成するウクライナ問題の「コンタクトグループ」の会合の開催を要請していると述べた。

メルケル首相は、北大西洋条約機構（NATO）が22日、ウクライナ国内でロシア軍が迫撃砲を発射するなど同国内での活動を活発化していると指摘したことについては触れなかった。しかし、同首相は、分離派勢力に対する武器や戦闘員の輸送を止めることは和平の前提条件だと述べた。ウクライナ政府も同様の要求をしているが、ロシアは東部の分離派支援を強硬に否定しているため、交渉の実現は非常に難しい。

2月にウクライナ情勢が緊迫化して以来、メルケル首相が同国を訪問したのは初めて。同首相はロシアとウクライナの仲介役として大きな役割を果たしている。ドイツは23日、ウクライナに対し、インフラ再建のための5億ユーロの融資保証や家を追われた人々の住居を確保するための2,500万ユーロの支援を含む金融支援を表明した。

ウクライナ治安当局のアンドリー・ルイセンコ報道官は、ロシアのトラックがウクライナ国内の軍需工場で機械を積み込んだと述べた。ただし証拠は示さなかった。一方、国境を監視しているOSCEはトラックがロシア領内に戻るときに何を積んでいたかについては明らかにしなかった。ロシア外務省報道官はトラックが機械を積んだとの指摘について、「妄想だ」と一蹴した。

ロシア外務省は許可なくトラックを派遣したことについて、今月12日にウクライナ政府から輸送許可を得たが、ウクライナの税関や赤十字国際委員会の官僚的な対応によって実行が難しくなると指摘した。また物資が必要となっている地域でウクライナ軍が軍事行動を強化していると述べ、非難した。

<http://on.wsj.com/ltvj2gC>

ポロシェンコ大統領の「原則的立場」：ウクライナの唯一の公用語はウクライナ語

（インターファクス 2014.08.24 02:18）

© Photo: RIA Novosti/Микола Лазаренко <http://bit.ly/1tFG4zF>

ウクライナのポロシェンコ大統領は、ウクライナの唯一の公用語がウクライナ語であることは今後も変わらないとの立場を再び発表した。ポロシェンコ大統領は 23 日、「ウクライナ国旗の日」の式典に出席しウクライナでは大勢の人々がロシア語で話しているが、考えた方はロシアとは違うと述べた。

大統領は、「言語的特徴に従って私たちを分割することは誰もできなければ、そのようなことが起こることもない」と指摘した。ポロシェンコ大統領は、「私は原則的に、唯一の公用語はウクライナ語であるという立場をとり続ける」と述べた。

<http://bit.ly/1tx8A7x>

今日ウクライナ独立記念日

(リアーノーヴォスチ 2014. 08. 24 09:52)

© Flickr.com/Vladimir Yaitskiy/cc-by <http://bit.ly/YPBs0v>

今日 8 月 24 日、ウクライナの独立記念日が祝われる。複数の街でイベントが行われる。キエフでは軍人・兵器の参加するパレードが行われる。未承認の「ドネツク人民共和国」では祝賀は行われない。しかし、中心部のレーニン広場では、黙祷、反ファシズム集会、義勇兵らのパレードおよび戦利品＝兵器の展覧会が開かれる。

リアーノーヴォスチ現地特派員によれば、24 日もドネツクの朝は軍による砲撃から始まっている。昨夕はキーロフスコエ市で礼拝が行われている最中の教会堂(イオアン・クロンシュタツキイ聖堂)に砲弾が命中、3 人が死亡している。23 年目の独立記念日は東部で続く市民戦争、壊滅的な経済状態、赤字補填のための政府の血眼の努力、などを背景に祝われている。

<http://bit.ly/1sizXQS>

識者：ウクライナ独立記念の軍事パレードは情勢に鑑みて「まとも」

(リアーノーヴォスチ 2014. 08. 24 10:17)

© Photo: uk.wikipedia.org/Michael - Parade @ Kiev/cc-by

リアーノーヴォスチの調べによれば、一部ウクライナ・ウォッチャーは、ウクライナ独立記念日に合わせてキエフで行われている軍事パレードは現実の問題から市民の目をそらさせるための PR 行動である、との見方を示している。

軍事作戦に資金を湯水のように使い、南部や東部では人道カタストロフィが発生している状況でパレードを行うことの是非については、ウクライナ政府内部でも意見が分かれている。ウクライナ

「地域党」は、パレードの使うお金があるのなら、軍ないし、ドンバスのインフラ再建に充てるべきだ、と主張している。

モスクワ国立大学ウクライナ・ベラルーシ・センター副所長ボグダン・ベスパリコ氏は、ここ最近ウクライナでは「あまりに非論理的ないし不条理な出来事が相次いでいたので、この状況下でパレードが行われることもいっそ『まとも』な行動に見える」と語っている。

氏はキエフ中心部の軍事パレードを「PR行動」と看破している。キエフの目論みは「民衆をして『国家は安泰であり、万事つつがなく、軍は方々で勝利を収めている』ことを信ぜしめることにある」とベスパリコ氏。しかし「実際はそんなことは現実とかけ離れているのであるが」。

<http://bit.ly/1tGaNgl>

ドネツク人民共和国：義勇軍はウクライナ軍の2個大隊の侵略を阻止した

(リア-ノーヴォスチ 2014. 08. 24 13:10)

◦ Photo: RIA Novosti/Mikhail Voskresenskiy <http://bit.ly/1okdD5I>

「ドネツク人民共和国」の義勇軍は声明を表し、長時間の戦闘の後、ウクライナ軍の2個大隊（兵員各5,000人・2,000人）が侵略を試みたが、これを阻止した、と述べた。

なお「ドネツク人民共和国」は土曜夕方方の声明で、ドネツク州クラスノエ市でウクライナ軍の破壊工作員6人が平和市民に扮して侵入し、義勇兵らとの戦闘の末、うちの3人が死亡、残りが捕虜となった、としている。

<http://bit.ly/1ru3vPM>

ウクライナ特務機関、独立記念日にむけたテロ準備

(Lifenews 2014. 08. 24 15:32)

◦ Photo: RIA Novosti <http://bit.ly/1qefTRb>

ウクライナの特務機関は8月24日の独立記念日にむけ国内3箇所の大都市でテロを用意した。

犯行責任は南・東部の義勇兵らに着せられる。

破壊工作班を直接的に指導する将校がロシアの特務機関に明らかにした。ニュースポータルのLifenewsはこの将校の証言の様子を撮影したビデオの入手に成功している。<http://bit.ly/1BTegxs>

<http://bit.ly/1vdePQV>

ウクライナ、2月23日の「祖国防衛の日」を廃止

(Lenta.ru 2014.08.24 16:30)

© Photo: RIA Novosti/President of the Ukraine Press-S <http://bit.ly/116QCIv>

ウクライナのポロシェンコ大統領は2月23日の「祖国防衛の日」の祝日を廃止することを明らかにした。ウクライナ独立通信社の報道によれば、大統領はこの声明を8月24日の独立記念日の軍事パレードの演説で表した。

大統領は「ウクライナはこれより先、この祝日を隣国の軍事歴史暦に従って祝うことはない」と断言する。我々が敬うのは自国の祖国防衛者であり、他国のそれではない。「ウクライナの軍隊の戦功の年代記はおびただしい数の戦いと記念日にあふれており、祖国防衛者の日をもつにふさわしいものだ。」と語っている。

<http://bit.ly/1okel4c>

ウクライナ、大統領が30億ドル以上を再軍備に

(リア-ノーヴォスチ通信 2014.08.24 17:09)

© Photo: REUTERS/Gleb Garanich <http://bit.ly/1vdfVw0>

ウクライナのポロシェンコ大統領は2015～2017年の間にウクライナ軍の再軍備と軍事機器の刷新のために30億ドル以上を拠出することを明らかにした。大統領は8月24日のウクライナ独立記念日に際し、キエフ中心部で行われた軍事パレードで声明を表した。ポロシェンコ大統領は、自国の独立を常を守る準備の必要性を指摘し、今年末までにすでに数十億ドルを拠出されることを明らかにした。

<http://bit.ly/1mFYxbi>

ウクライナ、独立記念式典で軍事力誇示

By ANTON TROIANOVSKI And ALAN CULLISON

(2014年8月25日 09:07 JST W S J)

<http://bit.ly/1tv2wNP>

ウクライナ独立記念式典の軍事パレードに登場したスメルチ多連装ロケット発射機 European Pressphoto Agency

ウクライナの首都キエフで24日、同国の独立記念日の祝賀式典が行われ、兵士、ミサイル、そして装甲車両が中心部をパレードした。このうち一部は東部の前線に送られる。ウクライナは軍事力を誇示した形だが、これとは裏腹に東部の戦況は膠着状態で、ウクライナ軍による攻勢は当初のはずみを失っているように見える。

一方、東部の反政府分離主義勢力は、拠点である東部ドネツクでウクライナ人捕虜たちを銃剣を突き付けてパレードさせた。西側は外交努力で事態収拾を図っているが、ウクライナ政府、分離主義勢力ともに戦闘継続の構えを崩していない。

首都キエフの軍事パレードは、ウクライナ人の誇りをかき立てると同時に懸念も生じさせた。政府軍による軍事攻勢が、主要な反政府勢力の残存拠点であるドネツクとルガンスク奪還という難しく危険な任務に直面しているためだ。ウクライナ軍はこの2つの都市をほぼ完全に包囲したが、反政府勢力が一步も引かなければ、攻撃で大きな損失と市民の犠牲を伴うリスクがある。

ウクライナのポロシェンコ大統領は軍事パレードで演説し、「最近数ヶ月間の動きは、宣戦布告なき現実の戦争になった」と述べ、「それは恐らく2014年の愛国戦争として歴史に残るだろう」と語った。

ポロシェンコ大統領は、キエフ中心部をパレードした兵器が東部にそのまま向かうだろうと述べた。そして17年までに軍事支出を30億ドル（約3,000億円）を追加して軍を補強すると語った。

軍事パレードは、西側が危機打開のため新たな外交努力を続けているにもかかわらず、ウクライナ、ロシア、そして親ロシア派分離主義勢力が共通の基盤を見いだせない中で実施された。ポロシェンコ大統領は23日、キエフを訪問したドイツのメルケル首相と会談した。メルケル首相は、平和のためにはロシアが国境を越えて分離主義勢力に武器を引き渡すのをやめることが必要だと述べた。

<http://bit.ly/lokjPL2>

ウクライナ独立記念日に国旗を背景に自分撮りする親子

Agence France-Presse/Getty Images

ポロシェンコ大統領は26日、ベラルーシのミンスクで欧州連合(EU)当局者とともにロシアのプーチン大統領と会談する。両者の会談は6月以来。メルケル首相は24日のテレビインタビューで、この会談で「突破口が開かれることはないだろう」と述べ、過度の期待感を戒めた。

反政府勢力の支配する東部ドネツクでは、分離主義勢力が独立記念日にあたり、数十人のウクライナ人捕虜に市中央部を行進させた。ロシアの国営テレビなどが放映した現場からの映像では、手を縛られた捕虜たちが銃剣を突き付けられながら行進。すると見物人が「ファシスト、ファシスト」と罵声を飛ばした。

ドネツクとルガンスク両市の反政府勢力の拠点は数週間前、陥落が間近と考えられていた。だが、

進展は滞っているようだ。7月初め反政府勢力がドネツク州の斯拉ビャンスクの拠点から逃亡すると、ポロシェンコ大統領は、分離主義者たちを東部から放逐する戦いの転換点だと称賛した。それ以降、ウクライナ軍は数十の町を奪還し、反政府勢力が支配する地域の面積を当初から半減させた。

しかし同時に、ウクライナ政府や西側当局者によれば、ロシアからの武器と戦闘員のウクライナ東部への流入が続いており、国境を封鎖してこうした流入を阻止する政府軍の努力は失敗した。国境のうち少なくとも 100 キロメートルは、ウクライナ政府軍の支配が及んでおらず、幾つかのウクライナ政府軍部隊は国境沿いで遮断され、反政府勢力や国境のロシア側から迫撃弾やロケット砲を撃ち込まれて大きな損失を被った。

ドネツクとルガンスクという2つの都市を奪還する任務は、一部のウクライナ軍関係者が当初予想した以上にはるかに難しくなるかもしれない。より多くの兵力とこれまでとは異なる戦い方が必要だからだ。

最近まで、ウクライナ軍は分離主義者たちよりもはるかに有利な立場にいた。大砲や航空機で優位に立っていたからで、どんな戦いでも反政府勢力の立てこもる陣地を粉砕できた。しかし、都市に立てこもった敵を相手にする場合、ドネツクとルガンスクが灰燼に帰すのもいとわない覚悟がウクライナ政府にない限り、こうした利点は有効に発揮できない。都市を壊滅させるやり方は、ロシアが1990年代にチェチェン共和国の反政府勢力と戦っていた時、同共和国の首都グロズヌイ制圧の時に実行した戦法だった。

<http://on.wsj.com/1BTqm9X>

ウクライナ軍パイロット、ドネツクおよびルガンスクへの出撃を拒否

(Mertesens.ru 2014.08.25 03:57)

© Screenshot: YouTube

ウクライナ軍のヘリや戦闘機が毎日のように義勇軍に撃墜されていることを受け、操縦士の一部が抗命の姿勢を見せている。

現地報道によれば、ハリコフ州チュグエフ市の飛行場では将官と兵員の間には軋轢が生じている。指導部内でも意見が分かれている。一方は「分離主義者」とロシアを撃滅することは兵員らの義務だとし（この人々の信念によれば、ウクライナでヘリ等を撃墜しているのはロシア軍である）、他方は自国民との戦争を望まない。後者は、しかし、軍事法廷や家族・親類への追跡をもって脅迫されている。将官同士の抗争も見られるようになっている。

<http://bit.ly/1wq7bnS>

英ウェールズで開催されるNATO首脳会議 ロシアは出席せず

(インターファクス 2014.08.25 10:35)

◎ Photo: NATO <http://bit.ly/1t0lsFB>

9月4・5日両日に英ウェールズで開催される北大西洋条約機構(NATO)首脳会議では、全ての重要なテーマがロシアに関係するものとなるが、同サミットにロシアの代表者は招かれなかった。ロシアの「コメルサント」紙が25日、NATO本部情報筋の話を用いて伝えた。

NATO情報筋によると、ウェールズで開かれるNATO首脳会議にロシア代表団が参加することは「不適切」だと認められた。

一方で情報筋が「コメルサント」紙に語ったところによると、ロシアの外交担当者たちは、「現在の状況でロシアが招待されるとは考えていなかった」という。

ロシアの外交筋は、「NATOはすでに4月の時点でロシアとの協力停止を決めた。これは私たちのイニシアチブではなかった。私たちは共同作業を継続する用意がある。重要なプロジェクトが凍結されたのは残念だ」と述べた。

情報筋はまた、NATOのラスムセン事務総長の後任にノルウェーのストルテンベルグ前首相が就任したあと、ロシアとNATOの関係が改善されることに期待を表した。

「コメルサント」紙によると、ストルテンベルグ氏は、NATO首脳会議後の10月1日にNATO事務総長に就任する。

<http://bit.ly/1t7XpnX>

モスクワ、テロ組織「イスラム国家」の活動を危険視

(インターファクス 2014.08.25 12:49)

◎ Photo: REUTERS/Stringer <http://bit.ly/1tDGEig>

テロ組織「イスラム国家」の活動はロシアにとって脅威である。ロシア外務省「新たなる脅威」課長イリヤ・ロガチョフが述べた。このような大規模なテロの脅威はロシアにとっても危険である。なぜなら被害を予測したり予見したりすることが非常に困難だからである。—ロガチョフ氏はこう強調した。

『イスラム国家』は現時点で、ロシアにとってはイデオロギー上の脅威でしかないが、この組織は別の性格の脅威にも変じうる」と、インターファクスのインタビューに答えて、ロガチョフ氏。

氏は具体例として、現在「イスラム国家」の戦列に立って戦闘を行っている戦士がロシアに帰ってくるといふ危険を挙げた。それから、「イスラム国家」がロシアのムスリム地域への影響力拡大を狙うことも脅威だ、とロガチョフ氏。

<http://bit.ly/1BX5w9B>

ロシア、近日、人道支援隊の第二弾を送る

(国内メディア 2014. 08. 25 13:26)

© Photo: RIA Novosti/Evgeny Biyatov <http://bit.ly/1vh1DdM>

ロシアのセルゲイ・ラヴロフ外相は月曜、モスクワはキエフに対し、「近日ウクライナ南東部市民への人道支援隊第二段を、先発隊と同じルートで派遣する」と通知した、と述べた。通知は日曜、ロシア外務省からキエフに対して行われた、と外相。また外相は、国際赤十字委員会およびウクライナ外務省に対し、しかるべく第二段支援隊の派遣に協力するよう呼びかけた。

モスクワで開かれた記者会見で外相は、「ルガンスクでは月曜、現地に金曜到着した人道支援物資の配給が始まった」と述べた。ロシアは配給が計画通りに進み、窮乏者全員に物資がいきわたるよう期待している、と外相。

<http://bit.ly/1BX653a>

日本人記者ら、ウクライナ問題をめぐる首脳会談の取材に大挙ベラルーシへ

(インターファクス 2014. 08. 25 13:33)

© Photo: RIA Novosti/Valeriy Melnikov <http://bit.ly/1ssEuQH>

世界各国のジャーナリスト 300 人（日本含む）がミンスクを訪れる。26 日に予定されているウクライナ危機の解決に関する首脳会談を取材するためだ。「ベラルーシ外務省には国外メディアから 300 通の記者証申請が届いている。26 日ミンスクで行われるベラルーシ・カザフスタン・ロシア・ウクライナ大統領および EU 議長の会談を取材するためだ」。

日曜、ベラルーシ外務省ドミートリイ・ミロンチク報道官がインターファクス通信に語った。「日本人記者から大量の申請が来ている」と報道官。また米国、フランス、チェコ、ポーランド、ウクライナ、ロシアほかの国々から記者が来るといふ。

<http://bit.ly/1tyd0Re>

ロシア議会下院議長：ウクライナ独立記念日の軍事パレードは侵略計画のデモンストレーション

(リア-ノーヴォスチ、イタル・タス、インターファクス 2014.08.25 14:12)

© Photo: REUTERS/Gleb Garanich <http://bit.ly/lnw3PWZ>

ウクライナ独立記念日にあわせてキエフで行われた軍事パレードは、指導部の危機拡大侵略計画のデモンストレーションであった。月曜、ロシア議会下院議長セルゲイ・ナルィシュキンが述べた。ウクライナ独立記念日にあわせてキエフで行われた軍事パレードは、指導部の危機拡大侵略計画のデモンストレーションであった。月曜、ロシア議会下院議長セルゲイ・ナルィシュキンが述べた。人を引き裂こうとする試みがマニャックな執念をもって続けられている。

<http://bit.ly/1q062yt>

日本政府、ロシアのビザ制限に遺憾

(リア-ノーヴォスチ 2014.08.25 14:41)

© Photo: AP/Eugene Hoshiko <http://bit.ly/1q1gyQG>

日本政府はロシアが一部日本人のロシアへの渡航を禁止する措置を発動したことについて、遺憾の意を表明した。ロシアの措置は日本の制裁への応答として取られたもの。菅官房長官の言葉を共同通信が伝えた。

具体的な人名について問われた官房長官は「ロシアは情報を公開しなかった。だから日本側も公表を控えたい」とした。

22日、駐露大使原田親仁氏に、ロシアへの渡航を制限する措置の対象となる日本人のリストが手渡された。これは日本側の措置に対する対抗措置。日本は5日、ウクライナ情勢を理由にロシアに対して導入した制裁の対象者となる人・機関40件が記されたリストを公開した。また日本はクリミアで製造された商品の禁輸措置も発動している。

<http://bit.ly/1pAujvh>

ラヴロフ外相：プーチン大統領の日本訪問は予定通り行われる

(インターファクス 2014.08.25 15:35)

© Photo: RIA Novosti/Alexei Druzhinin <http://bit.ly/1q1hgUN>

ロシアのラヴロフ外相は25日、モスクワで開かれたブリーフィングで、プーチン大統領の日本訪問について、ロシアは予定されている時期にプーチン大統領の日本訪問が実施され、ウクライナ情

勢はこれにいかなる影響も与えないと考えていると発表した。

ラヴロフ外相は、「我々はプーチン大統領が(日本に)招待され、大統領がそれを受け入れ、日本側はこの訪問時期を確認したと考えている」と述べた。

ラヴロフ外相は、「私たちは日本との関係をウクライナ紛争と結びつけていない」と指摘し、ロシアは日本との関係をいかなる事柄にも左右されない自立したものであると考えていると指摘した。

同時にラヴロフ外相はブリーフィングで、韓国のマスコミが、近いうちにも北朝鮮の金正恩第一書記がロシアを訪問すると報道したことについて、「そのような計画はまだない」とコメントし、北朝鮮の金正恩第一書記のロシア訪問はまだ予定されていないと発表した。

<http://bit.ly/1nw6y2u>

対露制裁を迫る米国、アジアのビジネスは抵抗

(ロシアの声 2014. 08. 25 16:35 リュドミラ・サーキャン)

◎ Photo: AP/Shannon Stapleton, Pool <http://bit.ly/1p6exmB>

米国政権は中国、韓国、シンガポールをはじめとする一連のアジア諸国に対し、ウクライナ情勢に端を発する対ロシア制裁に加わるよう説得を試みている。ダニエル・フリード国務次官補・欧州ユーラシア担当はリトアニアのマスコミからのインタビューに答えた中でこう明らかにした。それによれば、米国はこの件について韓国、シンガポールは交渉を、中国とは協議を行なっている。この4月、駐露中国大使は、中国は対露制裁に反対する姿勢を示すことを明らかにしていたが、他のアジア諸国は米国の動きにどうでるだろうか？

リアーノーヴォスチ通信の行なったアンケート調査に対し、専門家らは声をそろえ、米国の試みは「非現実的で将来性をもたない」と回答している。ロシア外務省外交アカデミー、東方調査センターのアンドレイ・ヴォロディン所長は、西側が対露制裁に加わったことで中国、韓国、シンガポールには新たな市場が開けたことを考えると、米国の誘いに乗るといふことはありえないと指摘する。所長はまた、米中の相互関係が非常に込み入ったシステムであることに注意を喚起し、次のように語っている。

「米国は中国の隣国との間には中国に非友好的な関係を拡大しようとしておきながら、中国に圧力をかけたところで何の功も奏さないと思う。これに関してはオバマ大統領が得る物は少ないだろう。シンガポールは心理的には支持を表明するという声明は表すにとどまり、ロシアとの取引量の縮小には踏み切らないだろう。なぜなら世界経済の成長率は鈍化しており、雇用縮小へと向かっているからだ。こうした現象は今、ドイツ、イタリア、フランスで起きている。」

「グローバル政治のなかのロシア」誌のフォードル・ルキヤノフ編集長は、中国に作用を及ぼすこ

となど絶対に出来ない」と断言する。

「中国は決して外的圧力に負けて何かを行なうことはなく、ましてそれが米国からの圧力であればなおさらだ。米中の協議ではおそらく圧力をかけるだけでなく、なんらかの提案が行われているのだろうが、正直いって、中国が外交政策の事実上の見直しに同意するような提案を米国ができるとは思えない。」

中国と緊密な取引を行なう《Optimum Consult》社のエヴゲーニイ・コレソフ代表取締役は、欧米の対露制裁によって露中の協力は強まる一方だとして、次のように語っている。

「欧州と取引するロシアの企業はあまり好ましくない状況に追い込まれている。一方で中国と取引する企業は逆にずっと旨みがある立場にたつことになった。未だに中国市場に出ていなかった者は中国へ注意を向けざるを得なくなるだろう。野菜果実に続いて、機械など中国製のほかの商品の供給量も増えてくるものと思われる。しかも今まで、たとえば機械分野では欧州とのみ取引していた企業にとっては、今まで、たとえばイタリア製だと思って購入していた製品の全部または大半が、実は中国で作られているものだと知って驚くに違いない。秋までには中国を相手にするロシア企業の数は増え、貿易取引量も著しく拡大するだろう。今まで中国と取引していたロシア企業の作業量はピークに達するだろうことから、中国との関係を未だに築いていない企業は最大限速くこれを行なわざるを得なくなる。」

輸入先が中国にかわることでロシア人消費者らが得をするか否かは次第にわかるだろう。いずれにせよ、アジアのビジネスは米国からの圧力に抵抗し、ロシアも新たなパートナー探しに困ることはないのは間違いない。

<http://bit.ly/1lasQeT>

OSCE議長 ウクライナ危機解決に向けた外交努力を止めないよう呼びかける

(インターファクス 2014,.08.25 16:40)

© Photo: East News/AP <http://bit.ly/lqlkeSF>

欧州安全保障協力機構（OSCE）のビュルカルテ議長は、ウクライナ危機の平和的解決に向けた外交的努力を弱めないよう、国際社会に呼びかけた。

議長は25日、ベルリンで演説し、前進するための唯一の方法は、あらゆるレベルにおける対話を確立することだと指摘した。

ビュルカルテ議長は、「これはロシアのプーチン大統領について語るだけでなく、プーチン大統領と直接話をする必要があることを意味している」と強調した。

議長は、「最近数年間で、ロシアと西側諸国の間には疎外感が生まれ、ロシアと欧州の間では共通の視点も欠如した。これらがウクライナ危機の発生を促進した」と指摘した。

http://japanese.ruvr.ru/news/2014_08_25/276398844/

ミンスクで露ウクライナ首脳会談、実施の可能性あり、ペスコフ報道官

(インターファックス通信 2014.08.25 16:50)

© Photo: AP/Christophe Ena, Pool <http://bit.ly/1tDNswv>

ロシア大統領府は8月26日ミンスクでプーチン大統領とウクライナのポロシェンコ大統領の首脳会談が実施される可能性を否定しない。

ペスコフ露大統領府報道官は25日記者団に対し、ロシアは会談でウクライナの危機解決および人道問題について胸襟を開いた話し合いを期待すると語る一方で、この会談で議事日程全体を話しあえるとは期待しがたいと述べている。

26日、ミンスクでの話し合いには関税同盟（ロシア、ベラルーシ、カザフスタン）、ウクライナの首脳のほかEUの代表者らが集まる。

<http://bit.ly/1wuAw0u>

ウクライナ危機、変わりつつある欧州の見方

(ロシアの声 2014.08.25 19:14 ナターリヤ・コワレンコ)

© Collage: The Voice of Russia <http://bit.ly/1qIjnrV>

ウクライナ危機が平和的に解決されるチャンスがめぐってきた。8月26日、ベラルーシのミンスクで、ロシア・ベラルーシ・カザフスタン・ウクライナの各大統領とEU議長の会談が開かれる。

これまでロシアに最後通牒を突きつけたり、挑発を繰り返すばかりであったウクライナのポロシェンコ大統領が、ロシアと対話する用意を整えた。ウクライナの東部・南部の抵抗を力で屈服させることは不可能であると見て取ったか。実に、戦争は既に長期間に及び、それだけでなく脆弱なウクライナ経済の首を締めつけている。EUをテコに危機を脱する試みも失敗した。ウクライナとEUの連合協定にサインがなされたが、今のところ、ただ新たな問題が発生したばかりだ。関税同盟諸国（ロシア、ベラルーシ、カザフスタン）と共同の原理・特典・恩典が、あるいは見直され、あるいは廃絶されることも不可避となった。このような大きなマイナスに対し、プラスはただ紙の上だけのこと、あるいは遠い未来のことに過ぎない。

EUも状況改善を望んでいる。ミンスク会談ではEU外相アシュトン氏が個人的にポロシェンコに帯同する。また欧州委員会副総裁でエネルギー問題担当委員のギュンター・エッチンガー氏、貿易担当委員カール・デ・グフト氏も参加する。彼らはキエフばかりか、自分たちをも救済しなければならなくなっている。「ポリチカ」基金のヴァチェスラフ・ニコノフ総裁に聞こう。

「EUはウクライナへの経済支援という重みを関税同盟に、その一角たるロシアに押しつけようとしている。私見では、会談において彼らが演ずる役回りは、『お願いする人』である。ただし、うわべはうまく繕うだろうが。EUは対ロ制裁を導入したが、そのことによって、自らもロシアからの対抗措置、すなわち食料品の輸入制限によって、被害を受けた」

ロシア含め、関税同盟諸国にとって、会談の経済的側面はむしろ重要だ。しかし、もっと重要なのは、ウクライナ南東部の情勢だ。ウクライナ軍のドンバス義勇軍に対する軍事行動は「明日」停止するのではなく「今」停止しなければならない。かの地に「人道上の災害」が発生していることは欧米の政治家たちや諸国際機関さえ認めるところとなっている。砲撃がつづく限り、水・電気の供給を再開させることも、パン屋や病院を再稼働させることも出来ない。スポンサーがいくらお金を出したとしてもだ。

しかし、平和への努力を語るポロシェンコの言葉は、未だに実行を伴っていない。いまやEUさえ、キエフに約束の履行を求める側に回った。ドイツ副首相ジークマール・ガブリエル氏は、ウクライナが危機から脱出するために、連邦化というアイデアは有望だ、と述べている（ちなみにドイツも連邦国家である）。メルケル首相も同様の趣旨の発言を行っている（キエフにおけるポロシェンコ大統領との会談後）。いずれにせよ、今度のミンスク・サミットに参加する面々は、困難かつ長期に及ぶ責務を担うことになる。それは知れたこと。しかし、キエフやEUが、こうしてモスクワ・ベラルーシ・カザフスタンとの対話にのぞんでいる。そのこと自体、EUの政治家たちの見方が大きく転換しつつあることの、ひとつの証左であろう。

http://japanese.ruvr.ru/2014_08_25/276407485/

露印合同軍事演習「アヴィアインドラ 2014」が 29 日に開始

(タス通信 2014.08.26 00:29)

Photo: RIA Novosti <http://bit.ly/VORUvM>

ロシアとインドは8月29日から合同軍事演習「アヴィアインドラ 2014」を開始。

演習の実施場所はロシア南部のヴォロネジ近郊およびアストラハン州の射撃場。25日、ロシア空軍公式報道官のイーゴリ・クリモフ大佐が明らかにした。

演習では両軍は戦闘機 Su-30SM およびヘリコプター Mi-35、Mi-8 から地上の標的を同時に狙う飛行訓練が行なわれるほか、地対空ミサイル S-400、S-300、防空ミサイルシステム「ブーク M1」、高射

ミサイル砲複合「 Pantsir S1 」を用い、仮想の敵を攻撃する対空防衛訓練が実施される。

<http://bit.ly/1omckDl>

OSCE 事務総長: ウクライナ東部の状況は「人道的大惨事」

(リア-ノーヴォスチ 2014. 08. 26 03:32)

◦ Photo: RIA Novosti/Ramil Sidtikov <http://bit.ly/1BXeaVA>

欧州安全保障協力機構 (OSCE) のザニエル事務総長は 25 日、オーストリア西部アルプバッハで開かれた欧州フォーラムの円卓会議で、ウクライナ東部の状況を「人道的大惨事」だと評価した。

ザニエル事務総長は、ロシアのプーチン大統領とウクライナのポロシェンコ大統領がミンスクで開かれる会合でロシアの人道支援物資のウクライナへの搬送について協議し、合意に達することに期待を表した。

ザニエル事務総長は、「人道支援物資の移動と搬送の組織に、大規模な国際的参加が必要とされている」と指摘した。

<http://bit.ly/1tyl3sp>

ウクライナ大統領、議会を解散

(インターファックス通信 2014. 08. 26 10:30)

◦ Photo: RIA Novosti/Mikhail Palinchak <http://bit.ly/VP5SxJ>

ウクライナのポロシェンコ大統領は 25 日夜、第 7 召集ウクライナ最高議会の全権を期限を前倒しして停止する大統領令を出した。2014 年 3 月に形成された連立政府からは、これを構成する 5 会派のうち「ウダール」と「自由」の 2 派が 7 月半ばに離脱していた。

ウクライナ憲法では、連立内閣が崩壊し、30 日以内に新連立が形成されなかった場合、大統領には議会を解散し、臨時選挙を公示する権利がある。10 月 26 日に議会選を実施するというポロシェンコ大統領の決定は 25 日夜、国民へのテレビ演説によって明らかにされた。

<http://bit.ly/1nwMqgP>

ロシア赤十字、ウクライナ向け人道物資輸送について 28 日に協議

(リア-ノーヴォスチ通信 2014. 08. 26 11:16)

© Photo: RIA Novosti/Maksim Blinov <http://bit.ly/lp6rn4n>

ロシア赤十字の代表者らは国際赤十字ロシア・ベラルーシ、モルドバ支部地域代表団のパスカル・キュート団長と会談を実施し、ウクライナ南・東部向けの次回の人道援助輸送の可能性について詳細を話し合う。

25日、リアノーヴォスチ通信はロシア赤十字モスクワ支部のイーゴリ・トゥルノフ支部長からの情報として報じた。会談の実施予定は8月28日。

25日、これより前、ロシアのラヴロフ外相は声明を表し、ロシアはウクライナに対し、近日中にもウクライナ南・東部の住民に向けた人道援助物資の輸送隊を同じルートを通して派遣する意向を通知したことを明らかにした。外相は、この通知文書について24日にロシア外務省はウクライナに送っており、国際赤十字委員会とウクライナに対し、ウクライナ向けの新たな人道援助物資の輸送に積極的な協力を呼びかけた。

<http://bit.ly/lomAihT>

中国、米国に対して対露制裁への参加を拒否

(ロシアの声 2014.08.26 12:27)

© Photo: East News/Value Stock Images <http://bit.ly/1COB7qP>

中国外務省は、ウクライナ状況に関する対露制裁に参加せよという米国の提案を退けた。イタル・タス通信が報じた。

中国外務省の声明は、「ウクライナ危機は政治的解決を要求する。現実的状況から判断すれば、一般に制裁では問題は解決できない。」「中国は全ての関係各国に対し、この地域の平和と安定を維持するため、冷静さと自制心を持って平和的交渉を進め、この問題に関して政治的な解決を模索して、食い違いを深刻化させたり、状況の緊張をエスカレートさせかねない行動を慎むよう呼びかける。」

<http://bit.ly/1luXmAz>

バルト三国、MDシステムの標的をロシアにするよう、NATOに進言

(ロシアの声 2014.08.26 13:52)

© Photo: East News/NIDS/NATO Media Library <http://bit.ly/XQNCG4>

バルト三国とポーランドは9月4・5日にウェールズで開かれるNATOサミットを前に、NA

TOに対し、欧州に配備されているMDシステムの照準をロシアに合わせるよう提案した。ドイツ紙「シュピーゲル」が報じた。

<http://bit.ly/VQ601q>

秋のプーチン訪日、なるか？

(ロシアの声 2014.08.26 15:17)

© Photo: RIA Novosti/Alexei Nikolskiy <http://bit.ly/1tHKYNz>

ロシアのセルゲイ・ラヴロフ外相は秋のプーチン大統領日本訪問が予定通り実現する可能性を否定していない。ウクライナ情勢をテーマとする25日の記者会見でラヴロフ外相は以下のように語った。

「我々是对日関係をウクライナ紛争とも気候変動とも関連づけていない。我々は、露日の関係は自足したものだと感じている。両首脳自身、すなわち安倍晋三首相もウラジーミル・プーチン大統領も、会談の際、そのように語っている。大統領は招かれており、大統領はこれを受け入れ、日本側も訪問の期限を確定している。そのことに立脚点を置きたい」

経緯を振り返ると、プーチン大統領の日本訪問については2月、五輪開催中のソチで両国首脳が会談して合意がなされたのである。しかしその直後、ウクライナ紛争が始まり、3月18日、ロシアのクリミア編入問題で、日本は対ロ制裁の第一段を導入した。これにより、ビザ簡素化協議が停止され、さらに3方面の協議、すなわち投資協力・宇宙開発協力・危険な軍事行動の予防に関する協議の開始が延期された。

続いて7月、日本はロシアの公人23人の入国ビザ発給停止を発表した。これが第二段。さらに8月初め、日本は制裁第三段として、「ウクライナ情勢不安定化に責ある」40個人2企業を制裁対象者リストに加えた。対するロシアは先週、ロシア駐在大使原田親仁氏に、ロシアへの渡航が制限される日本人のリストを手渡した。

以上の経緯から、プーチン大統領の訪日実現は、専門家たちの危ぶむところとなった。そこへ今回のロシア外相発言である。すなわち、ロシア側は訪問の可能性を否定していないのである。ここで極東研究所日本研究室のヴィクトル・パヴチャチェンコ上級研究員のコメントを聞こう。

「私の印象では、ロシア外務省は西側諸国の敵対的対ロ関係の輪を引き千切ろうとしているのである。日本は原則的に、訪問計画を撤回していない。ドアは開いている、と語ってきた。もし今になって日本が訪問を拒否したら、日本は『面目を失い』、露日関係は一から出直しになる。安倍晋三首相は明らかに、大統領の訪問を受けるチャンスを失いたくないと考えている。せつかく個人的な信頼関係を築いてきたのだ。しかし、一方で、日本は依然、あまりに強く、米国に依存している。日本はそんな米国と、関係を壊したくないのである。ビッグ・ポリティクス

上の問題だ。それから、もうひとつ、非常に重要なファクターがある。訪問の日程である。今の
ような状況では、訪問によって両国関係に何か風穴が開くようなことは、期待しにくい。た
だし、話すべき事柄はある。両陣営ともポイント稼ぎに汲々とする事だろう。しかし、それ
でも訪問によって両国関係が深化する事だろうことは、疑いを容れない」

日本側は既にラヴロフ外相の発言に反応を示している。菅義偉官房長官は、「訪問の日程は種々の
事情に鑑み」合意される、と述べた。具体的にどのような「事情」があるか、推して知るほかはな
い。

<http://bit.ly/1wzzW1l>

ウクライナ大統領、ミンスクで平和合意達成に期待

(リア-ノーヴォスチ通信 2014.08.26 15:53)

© Photo: RIA Novosti/Alexei Druzhinin <http://bit.ly/1tHLEtc>

ウクライナのポロシェンコ大統領は、26日のミンスクでの交渉の結果、ウクライナに平和をもた
らす合意の達成を期待している。ポロシェンコ大統領はベラルーシのルカシェンコ大統領との会談
でこうした声明を表した。

ポロシェンコ大統領は、これこそが関税同盟(ロシア、ベラルーシ、カザフスタン)諸国の首脳お
よびEU代表者との話し合いの主要な目的だと指摘し、EUの重鎮と関税同盟諸国の首脳がそろって話
し合いを行うような稀有な機会は、今回初めてもたらされたと語っている。

「あなた方、我々の間で平和をもたらす合意が達成されたならば、これは私たちの両国関係に
とっても意味のある出来事になるだろう。」

ポロシェンコ大統領は、ミンスクで開かれる協議は一度きりで終わるものではなく、これに続い
て同様の場が設けられるだろうとの見方を示し、ミンスク・サミットを組織する上でベラルーシの
果たした役割を高く評価した。

<http://bit.ly/1sytgKB>

プーチン大統領、ミンスク入り

(リア-ノーヴォスチ通信 2014.08.26 16:20)

© Photo: REUTERS/Vasily Fedosenko <http://bit.ly/1pf8Icu>

プーチン大統領は26日、ウクライナ問題の協議が行われるミンスクに到着した。協議にはウクラ

イナのポロシェンコ大統領、EU代表者、ベラルーシのルカシェンコ大統領、カザフスタンのナザルバエフ大統領が出席する。

協議ではウクライナ危機の正常化およびウクライナのEUとの協定合意締結後の経済上の相互関係が話し合われる予定。

ミンスクでは最高ユーラシア経済評議会の会議が首脳レベルで行われ、その後EUおよびウクライナの代表者らがこれに加わる。

<http://bit.ly/1taMnyn>

ミンスクで「関税同盟」首脳、ウクライナ大統領の協議が開始 (VIDEO)

(リア-ノーヴォスチ通信、インターファクス通信 2014.08.26 16:56)

◎ Photo: RIA Novosti/Alexei Druzhinin <http://bit.ly/VMG9X4>

「関税同盟」(ロシア、ベラルーシ、カザフスタン)の3首脳らとウクライナのポロシェンコ大統領の協議が26日ミンスクで開始された。会場はベラルーシ大統領官邸の「独立宮殿」。協議には欧州委員会からアシュトン、カレル・デ・グューフト、ギュンター・エッチングアの3氏が参加している。

プーチン大統領は協議開始前にウクライナのポロシェンコ大統領と挨拶を交わし、握手をして写真撮影に応じている。

動画：<http://bit.ly/YW0j0I>

<http://bit.ly/1ASxH8f>

プーチン大統領、「ウクライナ危機解決は南・東部との平和対話で」

(インターファックス通信 2014.08.26 17:29)

◎ Photo: RIA Novosti/Alexei Druzhinin <http://bit.ly/VQ7qaE>

プーチン大統領は、ウクライナ危機は南・東部数州の代表者らの関心を考慮せず、武力的手段を行使するやり方では解決できないとする声明を表した。

プーチン大統領はミンスクでの関税同盟諸国首脳とウクライナ大統領プラス欧州委員会代表らとの協議で、「我々はウクライナに生じている非常に危機的な状況について意見交換を行う構えであり、状況は武力的シナリオを今後エスカレートさせる方法では解決できないと確信している」と語った。

プーチン大統領は、ウクライナの危機解決のために南・東部の代表者らとの平和的対話を開始する必要を強調している。

<http://bit.ly/1p7FtSW>

カザフ大統領、関税同盟-ウクライナ会談の定例化を提案

(インターファクス 2014.08.26 18:46)

© Photo: RIA Novosti/Nikolay Lazarenko

カザフスタンのヌルスルタン・ナザルバエフ大統領は「関税同盟-ウクライナ」対話を定例化し、次の会合をカザフスタンで行うことを提案した。火曜の「関税同盟-ウクライナ」ミンスク会談での発言。

一方ロシアのウラジーミル・プーチン大統領は、ウクライナの関税同盟の協力拡大に賛成であるものの、もしウクライナとEUの連合協定が発効しうれば、それは難しくなるだろう、としている。ロシアはあらゆる国家が自らの政治的生命を組織する権利を尊重し、EUへの加盟も随意である、しかしそれがロシアの国益に損失をもたらすことはあってはならない、とプーチン大統領。

http://japanese.ruvr.ru/news/2014_08_26/276451137/

「中国よ、ロシアと交わるな」、米国の提案無為に終わる

(ロシアの声 2014.08.26 18:55 ナタリヤ・カシヨ)

© Collage: The Voice of Russia <http://bit.ly/1ASzgD6>

「中国は、対露制裁を求める米国の圧力に屈した場合、国際秩序の変化に影響を及ぼす可能性を失う。」ロシアの国家戦略研究所のミハイル・レミゾフ所長は、ロシアのウクライナ政策を原因に米国が中国に対し、ロシアと友好関係を結ばぬよう提案したことを受け、こうした声明を表した。

米国が中国に対し、西側の行う対露制裁に加わるよう提案したことは、ダニエル・フリード米国務次官補の声明で明らかになった。これに対し中国は丁重に、だが断固として反露政策への支持は行わないと米国の提案を退けた。中国外務省は米国への回答の中で、あらゆる禁止措置を講じても、ウクライナ状況の改善には何の功も奏さないとして、拒絶の理由を説明している。

レミゾフ所長の見解をご紹介します。

「中国にはこうした圧力に屈しないための十分にしっかりしたモチーフがある。ここ数年、中国を新たな国際的パワーポリティックスの中心にしようという傾向が見られてきた。アジア、

ラテンアメリカ、アフリカの多くの国の体制は対米関係で困難さを経験しており、中国に鞍替えしようとする試みが頻繁にとられてきている。これは中国にとっては利益になる話であり、今ここで米国の粗野な圧力に負ける姿勢を見せたならば、パワーポリティックスの新たな中心としての地位を中国はみんなの前で退け、面子を失うはめになっただろう。」

米国は、中国に対露関係を損なう代わりに提供できるものを何も持たない。ロシア人政治学者のセルゲイ・ミヘーエフ氏の見解をご紹介します。

「中国が米国の提案に乗れば、事実上、米国の世界大国としての主導的役割を認め、その従属国の一員に成り下がっただろう。こうしたことは絶対にありえない。しかも中国は大量の生産物をロシア市場で売りさばいている。そのためこうした市場を投げ捨ててしまうことは中国には絶対に出来ない。米国の機嫌をとるためだけに、自分の隣国であり、緊密な政治的パートナーであるロシアと地政学上の競争を行うことは、中国は決してやらない。」

ミヘーエフ氏は、対露制裁に乗る代わりに米国は中国になんらかの技術を与えようなどというのは、低俗なたわごとにしすぎないと語る。米国が国際舞台におけるライバル国を自らの手で強化することは絶対にありえず、中国もまたこのことをよく理解している。

<http://bit.ly/1qsBaXq>

ロシア軍、誤ってウクライナ国境を越える

(リア・ノーヴォスチ 2014. 08. 26 19:07)

Photo: RIA Novosti <http://bit.ly/1wzG7Tg>

ドネツク州でウクライナ側に拘束されたロシア軍人はロシア・ウクライナ国境を偶然越えていた。火曜、ロシア国防省の情報筋が明らかにした。

ウクライナ保安庁は先に、ウクライナのドネツク州でロシア空挺隊第 98 部隊の軍人 10 人が逮捕された、と発表していた。

ロシア国防省内の情報筋によれば、ロシア軍人はロシア・ウクライナ国境の一区画をパトロールしていた。おそらく、何ら標識のない場所で偶然に国境を越えてしまったものと思われる。拘束の際、ウクライナ軍に対する抵抗は何ら行われなかったという。

しかも、一方で、ウクライナ側は、一人でまたはグループで、度重なりロシアへの国境侵犯を行っているという。武器を携帯する者や装甲車に乗ったものも含め、その人数は 500 人にも及ぶという。

「我々は何ら騒ぎ立てることをしなかった。ただ、それを望む人なら誰でも、ウクライナ側の安全

地帯に送り返してやっただけだ」と情報筋。

<http://bit.ly/lpfbRJs>

プーチン：キエフがEUと連携した場合、関税同盟とウクライナの協力は難しい

(リア・ノーヴォスチ、インターファクス、イタル・タス 2014.08.26 19:26)

◦ Photo: RIA Novosti/Alexei Druzhinin <http://bit.ly/lq3izBi>

ロシアのプーチン大統領は、ウクライナと関税同盟（ロシア、ベラルーシ、カザフスタン）の協力拡大に賛成の意を表した。一方で、ウクライナとEUの連合協定が発効した場合、それは難しい、とも。

火曜ミンスクでEU議長の立会いのもと、関税同盟首脳とウクライナ大統領が会談した。その席でプーチン大統領は、キエフがEUとの連合協定の規定を完全に採択するならば、ユーラシア地域における貿易・投資協力は否定的な影響を受けるだろう、と述べた。

<http://bit.ly/XQRB5F>

モスクワはボーイング機撃墜の犯人を見逃しはしない

(ロシアの声 2014.08.26 19:56 ナターリヤ・コワレンコ)

◦ Photo: RIA Novosti/Mikhail Voskresenskiy <http://bit.ly/1lv0CvK>

ドンバス上空の悲劇の犠牲者の遺体は、まだ全て見つかってはいない。にも関わらず、世界はこの出来事を忘れかかっている。西側メディアも諸国際機関もこの問題をろくろく取り上げなくなっている。ロシアの孤立状態について、セルゲイ・ラヴロフ外相は次のように語っている。

「最初にヒステリーに近い熱狂をもってロシアや義勇軍を非難していた人々は今や口に水を含んだように沈黙している。この深刻な問題に今も関心を失わず、墜落現場における戦闘行為を即刻停止するよう求めた国連安保理第2166号決議の遵守を求めているのは、私たちだけになってしまった。ウクライナ指導部が公然と、戦火は停止されない、最初からその場所を義勇軍から奪おうと戦っていたのだ、と語ったときも、深刻な憂慮を示したのは、ほとんど私たち一人きりであった。自ら下した決議の尊重を強く求めるよう国連安保理に働きかけても、米国や英国、リトアニアがそれを阻止した」

7月17日、マレーシア航空のボーイング機が、アムステルダムを発ってクアラルンプールに向かった。旅客機はウクライナ上空を通る航路をとった。ウクライナ上空を飛行中、同機は突如、進路を変更、戦闘が盛んに行われている方角に向かい、高度を落とした。そして、義勇軍側の制圧下に

ある地域に墜落した。パイロットが航路を変更したのは何故か？ この謎を究明するのに役立ったかもしれない、フライト情報の自動記録装置は、最高の保存状態で見つかり、英国に手渡された。しかし、それも、また操縦士と地上の管制官の通信記録も、その担当の管制官自身も、事故の真相に光を投げかけることが出来たかも知れないものは全て、秘密指定されてしまった。キエフも、その政治的同調者も、犯人を見つけるのでなく隠そうとしているかのようだ。

しかしキエフやその同調者が、歴史を揉み消し、それをもって事件の犯人の責任を免除しようとしても、そのような試みは成功しない。モスクワは真実を突き止める、と外相。それも、ボーイング機の一件だけではない。ルガンスク行政庁舎を軍用機が攻撃した問題も、オデッサの恐るべき犯罪、すなわちナショナリストらの迫害から数十人の人々が逃げ込んだビルに火がつけられ、彼らが生きのまま焼かれるというあの事件も、国連のシンボルの入ったヘリをウクライナ軍が軍事的に利用した問題も、モスクワは忘れることを許さない。ウクライナでここ数ヶ月に行われた犯罪は、捜査を受ける。そして、これら、また他の多くの罪を犯した者たちは、人権裁判所に突きつけられる。

<http://bit.ly/1qKiPBo>

プーチン大統領、ウクライナのEU協定合意でロシアの損害額は1,000億ルーブル

(ロシアの声 2014.08.26 21:06)

◦ Photo: RIA Novosti/Alexei Druzhinin <http://bit.ly/1q3k02B>

ウクライナがEUと協定合意を結んだことでロシアは1,000億ルーブルの損失を蒙ることになる。ロシアとしては保護措置を採らざるをえない。プーチン大統領は26日、ミンスクでの関税同盟各国首脳とウクライナ大統領プラス欧州委員会代表らとの協議の席でこうした声明を表した。

プーチン大統領は、ロシア経済の蒙る損失額は最小限に見積もっても1,000億ルーブルにのぼり、ロシアの工業、農業全体がこの打撃を受けることになると語ったうえで、損害を蒙るのはベラルーシもカザフスタンも同様であり、ロシアはこの状況で行動を起こさぬわけにはいかず、自国市場を守る構えであることを明らかにした。

<http://bit.ly/1mPCnU9>

ロ大統領：ウクライナ大統領との会談は前向き－ミンスクで語る

(ブルームバーグ 2014.08.27)

ロシアのプーチン大統領は、ウクライナ東部での政府軍と親ロシア派との戦闘をめぐる同国のポロシェンコ大統領との会談について、「前向き」なものだったとの見解を明らかにした。プーチン大統領はベラルーシの首都ミンスクで会談を終えた後、現地時間27日未明に「ロシアはこの和平プロセスのために、あらゆることを行うつもりだ」と発言。「われわれとしては、できる限り早く開始

すべきだと考えている」と記者団に語った。

ポロシェンコ大統領は会談終了後にツイッターで、ドネツク、ルガンスク両州の分離独立を目指してきた親ロ派とウクライナ政府軍の戦闘終結に向けたウクライナの和平戦略をロシアとベラルーシ、カザフスタンは支持していると指摘。同戦略の詳細は明らかにしていない。プーチン大統領は記者団との会見の際、同戦略には言及しなかった。

原題：Putin Calls Ukraine Talks ‘Positive’ as Political Deal Discussed (抜粋)

<http://bit.ly/1v0E5KV>

習近平、米 MD 配備について韓国に慎重を求める

(イタル・タス、聯合通信 2014.08.27 05:04)

◎ Photo: AP/Silvia Izquierdo <http://bit.ly/1vPpw9M>

中国の習近平国家主席は韓国のパク・クネ大統領に対し、米国の MD システムのエレメントを国内に設置することについては慎重であるように、と呼びかけた。韓国の聯合通信が外交筋の情報として報じた。

7月の首脳会談でのことという。韓国大統領がこれにどう答えたかは不明。

米国は6月、MDシステムに連なるTHAADミサイルの自走式発射装置を韓国に設置する希望を発表している。韓国側は、キム・ガンジン大統領補佐官の議会における発言によれば、これに反対していない。

米国が朝鮮半島にMDを展開することについては、中国とロシアから憂慮の声が上がっている。

<http://bit.ly/1q41jMm>

ドイツ 欧州MDはロシアを対象としたものであってはならない

(インターファクス 2014.08.27 10:10)

◎ Photo: AP/Markus Schreiber <http://bit.ly/XRsRdt>

ドイツ政府は、北大西洋条約機構（NATO）が欧州に配備する予定の新たなミサイル防衛（MD）システムについて、ロシアを対象としたものであってはならないとの考えを示した。ドイツは、MDシステムが欧州の戦略的安定性に疑問を生じさせるものであってはならないほか、ロシアを対象にしたものであってもならないとする、2012年のNATOシカゴサミットの総括文書に準拠して

いる。ラジオ局「ドイチェ・ヴェレ」が26日、ドイツ政府のシュトライトラー報道官の発言を引用して伝えた。

これより先、ドイツの「シュピーゲル」誌は、英ウェールズで開かれるNATOサミットを前に、バルト三国とポーランドが、ロシアを対象としたMDミサイルシステムを欧州に配備するようNATOに提案したと報じた。「シュピーゲル」誌の情報によると、NATO加盟国の大多数が、ロシアを対象としたMDシステムに反対の意向を示したという。

<http://bit.ly/1v1mGMg>

日本政府 プーチン大統領とポロシェンコ大統領の会談を肯定的に評価

(リア-ノーヴォスチ 2014.08.27 10:46)

© Photo: REUTERS <http://bit.ly/1tC5qjP>

日本政府は、26日に実施されたロシアのプーチン大統領とウクライナのポロシェンコ大統領の会談について、ウクライナ情勢の「外交的解決に向けた動きを評価したい」との考えを表した。共同通信が、菅官房長官の発言を引用して伝えた。

菅官房長官は、プーチン大統領とポロシェンコ大統領の会談を肯定的に評価し、「私たちは（ウクライナ危機の）平和的解決に向けた協議が行われたことを知っている」と述べた。「ウクライナ情勢の早期正常化に向けてすべての当事者が自制し、対応していくことを期待したい」と指摘した。日本のマスコミが伝えた。

26日、ベラルーシの首都ミンスクで、関税同盟に加盟するロシア、ベラルーシ、カザフスタンの首脳と、ウクライナ大統領、ならびに欧州委員会の代表者による会合が開かれた。またロシアとウクライナ的首脳会談も実施され、プーチン大統領とポロシェンコ大統領は約2時間にわたって1対1で話し合いを行った。プーチン大統領は会談を総括し、ロシアとウクライナはエネルギーとガスを巡る協議の再開が重要だと考えていると発表した。

<http://bit.ly/XRtjs9>

露ウクライナ、ウクライナ南・東部正常化協議の開始を合意

(インターファックス通信 2014.08.27 11:24)

© Photo: RIA Novosti/ Alexei Druzhinin <http://bit.ly/1zCQjXf>

プーチン大統領、ウクライナのポロシェンコ大統領は26日ミンスクで首脳会談を行い、ウクライナ南・東部の状況の正常化を図る協議を開始することで合意した。

このほか、ガス・エネルギー問題の対話を再開することも決められた。プーチン大統領は会談を総括し、ルガンスク、ドネツク両州の市民への援助を行なうメカニズムを話し合ったことを明らかにした。一方でプーチン大統領は、紛争停止の条件についてはロシアはキエフ当局とは話し合いを行なえないとし、その理由について、これは当事者同士が解決すべき問題だからだと説明した。大統領は、会談ではロシアが交渉プロセスを保証するため何が行なえるかについて言及されたことを強調している。

「我々ができるのは、これからあり得る、そして私が思うに非常に必要な交渉プロセスを行なう中で出来る信頼の場作りに手をかすことだけだ。」

<http://bit.ly/1tbohUn>

プーチン大統領、ロシア・パラシュート隊のウクライナ領降下について コメント

(インターファックス通信 2014.08.27 11:58)

◦ Photo: RIA Novosti/ Alexei Druzhinin <http://bit.ly/XTVFCc>

プーチン大統領は関税同盟、EU、ウクライナ間の協議を総括した記者会見で、ロシアのパラシュート部隊は国境線のパトロールに際してウクライナ領に降り立つ可能性はあったと語った。

「私の聞いたところでは、彼らは国境付近のパトロールを行っていて、ウクライナ領に入ってしまった。だがロシアに入ってきたのはウクライナ軍人のほうではないか。装甲車両に乗って入ってきたのだ。問題は起こらなかった。この場合も問題にはならないことを願う、」

プーチン大統領は、これより以前、ロシア側にウクライナ軍人が入ってきた事があり、その際は数十人もいたと報告されていると語り、最近では450人もがロシア領域に入ってきていると指摘した。大統領はさらに、現時点で受け取っているのは事件についての第一次報告のみで、国防相、ロシア連邦参謀本部からの報告はまだ入ってきていないと補足した。

<http://bit.ly/1C4kFWx>

ドネツクでウクライナ軍人捕虜 100 人超が投降

(ロシアの声 2014.08.27 16:35)

◦ Photo: AP/Sergei Grits <http://bit.ly/XTwfj6>

義勇軍に掌握されたドネツク州スタロベシエヴォ居住区では、8月27日朝までに、捕虜になっていたウクライナ軍人および国家親衛隊員 129 人が自主的に投降した。自称ドネツク人民共和国の司

司令部がリアーノーヴォスチ通信に対し、明らかにした。

ウクライナ軍人は武器を捨て、白旗を掲げて義勇軍らのもとに出てきた。ロシア 24 が報じた。

義勇軍からの情報では、ドネツクの郊外、アヴデーエフカとヤシノヴァタヤで深夜に展開された戦いではウクライナ軍側は 25 人の死傷者を出したほか、装甲兵員輸送車 2 台、戦車、弾薬倉庫を失い、自走多連装ロケット砲「グラード」4 機が破壊された。

ドネツク人民共和国のアレクサンドル・ザハルチェンコ首相兼総司令官はこれより前に声明を表し、24 日よりドネツク人民共和国軍はあらゆる方面で大規模な攻撃に転じたことを明らかにしていた。

<http://bit.ly/1pjy8Wn>

成功は間違いなし、モディ首相の訪日

(ロシアの声 2014. 08. 27 17:38 V. ヒョードロフ)

◎ Photo: REUTERS/Amit Dave <http://bit.ly/1rBlowa>

インドのモディ首相の訪日は首相のイメージ作りにとっても、中国、韓国と緊張関係を作ってしまった安倍首相にとっても非常に重要な意味を持つ。ロシアの極東研究所と東洋学研究所の専門家らはこうした見方を示している。専門家らは、東京での交渉にはアンチ中国的なものではなく、中国を見据えた背景が浮き出てくるはずだと断言している。

交渉では多くのテーマの背後に中国が出てくる可能性については、インドのプレスも書きたてている。特に「タイムズ・オブ・インディア」紙は、インド首相が東京以外にもう一つ別の都市の訪問を決めたことは中国に対する堂々たるシグナルだとの見解を表した。別のプレスは、モディ首相の訪問は、先日安倍首相が発言したように、南シナ海を「北京の湖」に変えようという中国の意向をコンテキストにした場合、特に重要度が高いと指摘し、この中国の意向は最初の一步にすぎず、中国の最終目的は地域全体の掌握だと書きたてた。

極東研究所、日本調査センターの専門家、ヴィクトル・パヴリャテンコ氏は、インドと日本の関係における中国というファクターは、モディ首相の訪日の主要な背景のひとつとなるはず、との見方を示し、次のように語っている。

「安倍首相の対インド政策が活発化することで、日本は中国に対し自国の目的を見せ付けている。日本は東シナ海地域のみにとどまるつもりはなく、インド洋まで広がる戦略的関心を持っている。日本の目的は急速に悪化する対中関係を背景に信頼できるパートナーとしてインドを持っておくことだ。訪問の裏側に、反中国的ではなく、中国を的にすえた話が隠されているのは間違いない。インド、日本、中国というトライアングルには多くの鋭角があり、論議を呼ぶ

テーマがある。これが自然と、この訪問の概観、結果、会談の枠内ですえられた目的の分析に対して、少なくとも大きな関心と呼ぶことになるのだ。」

インドのモディ新首相は先を見通し、プラグマティックな能力を持つ。東洋学研究所、インド調査センターのタチヤナ・シャウミャン所長は、モディ首相の優先的政策のなかで日本が浮かび上がってきたのは偶然ではないとの見方を示し、次のように語る。

「この訪日はモディ氏が首相に就任するとほぼ同時に発表された。これは日本との関係、特に貿易経済関係は今後活発に拡大され、それがインドにとって大きな意味を持つことを示すシグナルとなった。もちろん、この状況で中国というファクターを除去することはできないだろう。日中が諸島をめぐるいざこざを抱えている背景ではなおさらだ。このケースでモディが日本よりの立場をとるだろうと考えるのは正しくない。モディ氏は日中の中でバランスをとり、インドは、中国、日本から吹いてくる政治的な風によらない、独立した外交政策を行なうところを見せようとするだろう。」

パヴレンコ氏は、安倍首相は日本とインドの関係を強化するためならあらゆる手段をつくすだろうとの見方を示す一方で、中国に対抗するゲームにインドを引き込むことができるというのは政治的にはナイーブな発想だとして、次のように語っている。

「インドを自分のほうへ引き込もうというのは安易なアプローチだ。インドを引き込むことは誰もできない。日本もインドも重さが違う。インドは完全に独立した外交を行なっている。これは日本のそれよりもずっと独立したものだ。そのため、インドを引き込もうというのは非常に思慮に欠けるアプローチといえる。インドは一方の端からもう一方へと引きずりまわせるような大国ではない。インドは今日、日本の対中関係よりずっと良好な関係を中国と築いていることを忘れてはならない。」

現在、中国の習国家主席のインド訪問が準備されている。期日はまだ明らかにされていないものの、その議事日程がモディ首相の訪日を背景に、またその結果による影響をうけて決められることは間違いない。中国は、モディ首相と安倍首相がどんな大型合意を結んだところで、インド市場における影響力競争では日本に譲ることは決してないだろう。

<http://bit.ly/1qLwU1E>